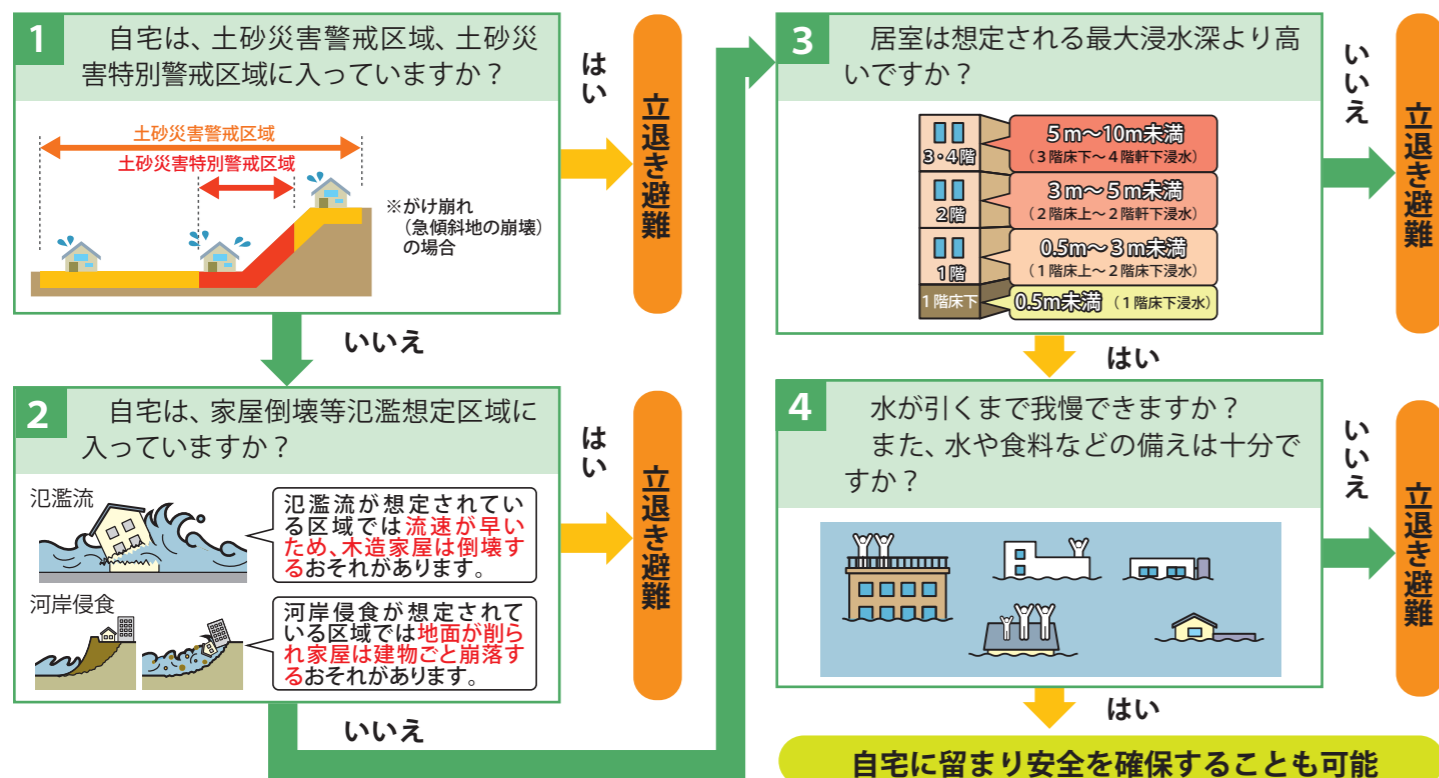


1. 避難を考える

1-1. 洪水・土砂災害ハザードマップの見方

避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、立退き避難する必要はありません。下の①~④に従ってハザードマップを確認し、大雨時に自分がとるべき行動を知り、いざというときに備えましょう。



1-2. 大雨時の避難行動

避難行動は「立退き避難(水平避難)」または「屋内安全確保(垂直避難)」があります。

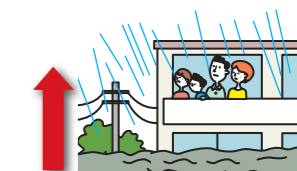
立退き避難(水平避難)

その場を立退き、危険性のない避難場所や避難所、親戚・知人宅、近隣の頑丈で高い建物や標高の高い場所へ移動すること。



屋内安全確保(垂直避難)

建物の上階へ移動し、斜面の反対側の居室で安全確保すること。



立退き避難について

市が指定している小中学校や公民館などの避難所に行くことだけが避難ではありません。立退き避難は下の3つの行動があります。普段からどこへ避難するか家族で決めておきましょう。

市が指定した避難場所や避難所への立退き避難



安全な親戚・知人宅への立退き避難



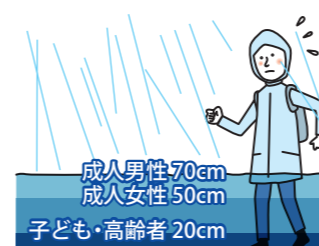
安全なホテル・旅館への立退き避難



立退き避難の心得

立退き避難は、災害が発生する前に徒歩による自主避難が原則です。

歩行が困難になる浸水の深さ



移動は2人以上で、みんなで助け合って避難を



1人だと、いざというときに助け合えません。避難するときは隣近所のお年寄りや障がいのある方に声をかけ、協力して避難しましょう。

避難は動きやすい服装で



長靴やサンダルは危険です。運動靴をはき、両手が自由になるよう持ち物はリュックサックに入れて避難しましょう。

夜間の避難は要注意!



夜間の避難は周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しましょう。

大雨で洪水が発生する原因は

積乱雲

大気の状態が不安定なときは、積乱雲(雷雲)が発達し、強い雨が降ったり、雷や竜巻が発生しやすくなります。

積乱雲が近づくサイン



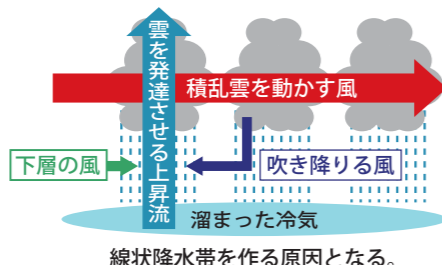
前線の停滞、台風の接近

日本付近では6月頃に梅雨前線、9月頃に秋雨前線が停滞します。また台風は、進行方向に向かって右側が特に危険といわれています。



線状降水帯

線状降水帯は、次々と発生した積乱雲により、線状の降水域が数時間にわたってほぼ同じ場所に停滞することで、大雨をもたらすものです。

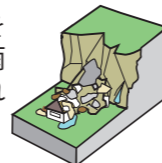


土砂災害の種類

土砂災害には次の3つがあります。このマップには3つまとめて土砂災害と記載しています。

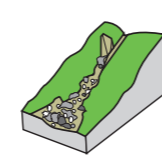
がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

「がけ崩れ」は、大雨などをきっかけに地面にしみ込んだ雨水により急な斜面の土砂が崩れ落ちる現象です。



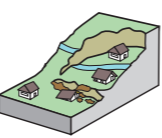
土石流

「土石流」は、大雨などをきっかけに谷底にたまった土砂や山腹から崩れ出した土砂が水と混じり合って一体となり、谷を一気に流れ下りる現象です。



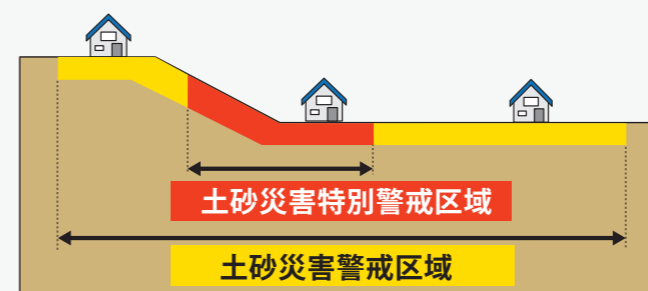
地すべり

「地すべり」は、雨や地下水などをきっかけに山すそや丘陵地などの斜面で、地中のすべりやすい地層を境に地面がゆっくり動き出す現象です。



土砂災害(特別)警戒区域とは

土砂災害から国民の生命を守る目的で施行された土砂災害防止法に基づき、土砂災害のおそれがある区域について福井県が調査を行い「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」の指定・公開を行っています。



- 土砂災害警戒区域**
土砂災害のおそれがある区域で、警戒区域では危険の周知など警戒避難体制の整備が図られます。
- 土砂災害特別警戒区域**
土砂災害警戒区域のうち建築物に損壊が生じ住民に著しい危害が生じるおそれがある区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制、建築物の移転の勧告及び支援措置などが行われます。